

日銀からトルコまで、市場が発する異音

国際金融マーケット研究家 豊島逸夫

- * NYに呼ばれると日本株が上がる？
- * かつてなく日銀を注視する海外ファンド
- * マーケットを動揺させるトランプリスク
- * EUで懸念されるイタリア問題
- * 新興国から逆流して逃げるドルマネー
- * 引き金は先進国の量的緩和の縮小
- * 消去法で日本株に向かう海外マネー
- * ビットコインは今はまだ導入期
- * 中国は米中貿易摩擦で金融再緩和へ
- * 金は売られ過ぎで反転近い



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
暑い夏もやっと二段落で皆さんにお目にかかれてたいへんうれいします。

今日皮切りはマーケットの情勢について、3回目になります豊島さんにおいでいただきました。政治の世界、マーケットの状況を見ますと、今日のタイトルに「異音」とありますように、おかしな動きが始めております。そういうものをどう捉えたらいいか。そのことよつてマーケットにどういう変化が生じているか。そのあたりの現場感覚ということでは豊島さんがいちばん確かでございますので、今日はじっくりお聞きいただきたいと思ひます。それでは豊島さんお願いいたします。（拍手）

NYに呼ばれると日本株が上がる？

豊島 こんにちは。ここは3回目です。70分ほどお話しいたします。

実は私は来週ニューヨークに行くんですけれども、この5月にもウォール街に行って、ヘッジファンドを14社ぐらい訪問してきました。主観は日本株です。これは前回もお話しした覚えがあるんですが、要はジンクスがあつて、私がニューヨークに呼ばれていくと、その後、日本株が海外投資家によって買われると。今年も5月、連休が終わったあたりに2週間ほどニューヨークに滞在して14社、ヘッジファンドを戸別訪問したり、講演などしまして、自分の原稿でも7月ぐらいに来るかもしれないと書いたん